



【自然科学の時間・日本のロボットと上海万博】

中国製机器人は日本の夢を見るか？

株式会社エルエルパレス ホビーロボット事業部「ロボットフォース」
岩気裕司

10月31日まで中国で開催されている上海万博。
こちらに、自称大阪の観光大使ロボ「通天閣ロボ」が参加しました。
通天閣が有名ではない海外で、
通天閣ロボはどのような歓迎を受けたのでしょうか。



「通天閣ロボ」上海万博に参上

『通天閣ロボぼぼぼぼくん』というセリフを聞いてピンとこない方のために、「通天閣ロボ」のことを簡単に紹介させていただきます。

今年の三月にデビューしたばかりのこのロボットは、大阪の活性化を目指してつくられた観光大使ロボ(自称)で、通天閣観光(株)の依頼により大阪日本橋電気街の有志によって製作されました。

身長一七〇センチ以上、体重約三〇キロ、軽合金やカーボンFRP材で作られた世界最大級の二足歩行ロボットで、通常は通天閣内で動態展示しておりますが、バラエティ番組やイベントへの出演、公共キャンペーンの他、観光大使として東京タワーや上海万博を訪問するなどの活動を精力的に行っております。

申し遅れましたが私、岩気が機体の設計、実機を製作し現在も運用を担当しております。

今回はその話題(?)の「通天閣ロボ」を連れて上海万博に行ってきたお話をします。さて、上海万博にロボットを出展といえば、日本館とか、日本産業館を真っ先に思いつくでしょうが、今回の目的地は大阪館。橋下大阪府知事や、平松大阪市長らと共にへなにわの日(7月28日)に合わせて大阪館で行われるイベントへ参加するのが目的です。

実質2日間ですが、イベントとは別に大阪館脇に展示スペースを用意していた

だきましたので、中国の方に真近で通天閣ロボを見ていただける機会を得ました。

上海でもロボットは大人気

心配だったのは、このアウェイの地でちゃんと観客を惹きつけることができるのかということ。あまり興味を持ってくれなかったらどうしよう。中国国内では元ネタの通天閣の知名度が低いので、あの通天閣がロボットになった」というファーストインパクトは期待できませんし、鉄塔然とした姿をロボットとして認識してもらえないかどうかにも自信がありません。

そもそも、通天閣ロボのようなエンターテイナー系ロボの意味自体が理解してもらえないのかも不明です。昔から日本製のロボットアニメが放映されている地域は「ロ

中国の報道陣にマイクを向けられる通天閣ロボ



ロボットはお友達文化圏」なので楽勝なのですが、中国、上海は微妙です。ネットで調べても同種のロボットはいないよう少々寂しい。

ですが、始まってみると、それも杞憂に終わり、搬入した段階から「机器人、机器人」と口にしなから人が集まってきました。ロボットを中国語で「机器人(チーチーレン)」というのは知っていました。実際に普通の人たちの口からこの単語が出るのを聞くとなんだが嬉しくなっていました。ここも「ロボットはお友達文化圏」決定です！ 皆さん興味津々です。もうホームです。

デモの内容は専用に作った中国語バージョンの自己紹介と大阪の観光案内ですが、大きな動作では驚き、ロボットの表情にも反応して、日本と同じように聞いてもらえました。あたり前のことに思うでしょうが、上海出身の方にも協力してもらって長い時間をかけて準備したプログラムですから、日本と同じ反応なら苦労が報われたということ。それどころか、話しかけたり、手をかざしたり(センサーの反応を見る?)など、皆さん慣れてらっしゃる?

積極的な中国の観客

もちろん写真撮影をしていく人が多いのも同じ、ただ積極的な人が多いというか、写真欲が強いというかパーティションの中にズンズン入ってきて通天閣ロボと並んでポーズをとっています。おかあさん

が子供に「そこに並んで立ちなさい」とか指示しているのは日本でも良く見かける光景ですが、大人が1人で横手から回り込んでパーティション内に迷いなく入ってくる、会場のスタッフか誰かが用事があつてきたのかと思つて身構えてしまっています。これも中国語がわからないとはいへ、礼儀として、一言、なにか許可を求めるアクションが欲しいですね。と言いつながら侵入者?があると、リモコンでわざわざロボにポーズをとらせたりとサービスしちゃうところが日本人の性ですかね。

質問攻めにあつ

事前にこの展示があることを中国内で宣伝してあつたわけではないですから、予備知識なしでイキナリ遭遇した方ばかりで質問も多かつたです。あ、多分質問です。中国語わかりませんが何か一生懸命聞いているのは分かります。観光用のパンフを渡して誤魔化しちやいました。ロボ自体の説明のパンフも用意しておくべきでした。そんな中で、やはり本格的に興味のあるひとはパーティション内にズンズン入ってきます。ある技術者の方でしたが、ちよつと話してみても、お互いに日本語、中国語が話せないことを確認。たどたどしい英語(英語?)で、なんとか会話しているものの肝心の技術的な事は説明できません。筆談でも専門用語の中国語がわからないとムリです(カタカナ多い)。

それでもあきらめる彼ではありません!

やおら携帯電話を取り出すと自分の職場の動画(機密じゃないのか?)を見せてくれて、自分がどういう仕事をしていて、どの部分が知りたいのが説明してくれます。こつちはそれに対応した部分を動かして見せて応えるといったハイテクなんだか原始的なんだかわからない方法で目的を達成して(たぶん)帰って行きました。欲しいものがあれば言葉の壁など全く気にしないバイタリティを感じましたね。

小さなロボットは足で触れる?

この等身大の通天閣ロボの他に「小天閣」という身長四〇センチくらいの小さなロボットも持ち込んで、観客の足を歩き回らせたり発話させたりしていたのですが、こちらも子供達に大人気で、みんな話しかけたり、足で蹴ったりしてくれます。ん?、何故、足で蹴る?

なんでイジメルかね?と思つてリモコン操作で逃げても同じ。で、よくみると強く蹴飛ばすわけではなく、足でへふれていゝ感じ。日本なら、しゃがんで頭を撫でるとか、腰を折つて手を伸ばして握手をするところ。です。

もちろん、しゃがんで手を伸ばしてくるお行儀の良い子もいるけど、足派が大多数です。しかもこれは子供だけでなく大人も同じ、でもって片足のバランスが妙にいい、みんな器用に足を使います。太極拳とかやっている人も多いし普段から足は良く使うのか? 足を使うのは、いくら相手が

ロボットでも失礼じゃないの?とは思いますが、大きな通天閣ロボに対しては、足なんか使わないので、手が届けば手、届かなければ足という習慣とか文化なんではないかな。

万博でロボットに会い

ちなみに休憩の間にこの「小天閣」を大阪館の外に持ち出して各国のパビリオンをバツクに道路上で記念写真を撮つたりしていたんですが、これをめざとく見つけて「机器人、机器人」といって人が寄ってきます。

炎天下で焼けそうだったので電源は切っていたし銀色の塊にしか見えなと思うんですが(その上デザインが人型っぽくない)、何故かロボットだと認識している。みんな好奇心旺盛です。万博にすれば周りは面白いものばかりに違いないと鶴の目鷹の目なんです。

思い起こせば、一九七〇年の大阪。まだ小学生だった私が最初にロボットの啓示を受けた?(最初に感化された意)のが大阪万博だった。あのときは自分も好奇心一杯で眼を皿のようにしていたなあ。

この上海万博では、中国製のヒト型ロボットにはお目にかかれませんでしたけれども、ぜひ次の万博では、これだけ好奇心が強くバイタリティがあつてちよつと文化の違う人たちの作ったロボットを沢山見てみたいものです。